

2025 年度入学生用各教科の進度表

学 年		中学校			高等学校		
		1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年
英 語	目 標	英語の 4 技能について、基礎力を育成する。積極的な学習態度を養う。			英語の 4 技能について、応用的・発展的な力を育成する。高度な英語力を総合的に養う。		
	学 習 内 容	英語：現在形・現在進行形 過去形・過去進行形 助動詞 未来の表現の基礎 存在文 比較の基礎 英会話：自己紹介 物語のリーディング スピーチ ゲーム 等	英語：接続詞 不定詞・動名詞 受動態 現在完了 関係代名詞 間接疑問 仮定法過去 英会話：ショウ・アンド・ テル リサーチプロジェクト インタビュー 暗唱発表 等	英語：過去完了 助動詞の発展的用法 使役動詞・知覚動詞 受動態の発展的用法 関係代名詞・関係副詞 名詞節・副詞節 分詞構文 仮定法過去完了 比較・強調・否定・倒置 英会話：歌、インタビュー、 ゲーム、 プレゼンテーション、 スピーチ、ライティングプ ロジェクト 等	英語コミュニケーションⅠ：英語による 情報を的確にとらえる。さまざまな 話題について、自分の考えを表現す る。 論理・表現Ⅰ：文法を体系的に理解する。 それに基づいて、英語による情報を 活用し、表現する。	英語コミュニケーションⅡ：英語による 情報を的確にとらえる。発展的な文法事 項を理解し、運用する。 論理・表現Ⅱ：自分の意図する内容が明 確になるように、ひとまとまりの情 報や自分の考えを文法的に正しく表 現する。	英語コミュニケーションⅢ：大学入試 に向けて、リーディング演習および リスニング演習を行う。 論理・表現Ⅲ：既習の文法事項について 総合的に復習し、発展的な内容につ なげる。大学入学共通テストに向け て演習を行う。 演習英語：大学入試に向けて、総合的に 演習する。 クリエイティブライティング：さまざま なトピックについてライティング活 動を行う。
国 語	目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する基礎的な 能力を育成する。			言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する応用・発展的な能力を育成 する。		
	学 習 内 容	中1 教科書・補助教材 口語文法 国語辞典・漢和辞典の使い方 漢字(漢検対応テキスト使用、 漢検受験(3 級)) 小倉百人一首 表現活動 書写	中2 教科書・補助教材 口語文法 漢字(漢検対応テキスト使用) 表現活動 書写	中3 教科書・補助教材 古典(自主教材) 古典文法 漢字(漢検受験(準2・2 級)) 表現活動 書写	現代の国語：現代の社会生活に必要 とされる論理的な文章及び実用 的な文章を扱う。 言語文化：古典～近現代の文学作品を 扱う。 古典文法 漢字(大学入試対応テキスト使用) 表現活動	論理国語：近代以降の論理的文 章及び実用的な文章を扱う。 古典探究：古文・漢文を扱う。 現代文用語 古文単語 表現活動	論理国語：2 年次からの継続履修 古典探究：理系 文学国語：文系 近代以降の文学的文章 を扱う。 演習古典・演習古文・演習漢文・演習 国語：大学入試問題に対応できる 知識・理解力を深める。 日本文学史

学年		中学校			高等学校		
		1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年
数 学	目標	数学の楽しさを知り、興味・関心を高め、数学的基礎力を育てる。宿題プリントなどにより、日々の学習を確認し、基礎の徹底を図る。		社会で活躍するための数学的発想力・思考力の基礎を育てる。生徒の理解と興味関心を一層高める。		知識の幅を広げ、数学的発想力・思考力・応用力を育てる。大学で学ぶことへの橋渡しとなる学習、進路別授業。	
	学習内容	代数1：中学校の代数分野の内容 幾何1：中学校の幾何分野の内容	代数2：中学校の代数分野の内容 幾何2：中学校の幾何分野の内容	代数3：高校の数学Ⅰの内容 幾何3：高校の数学Aの内容	数学Ⅰ：数学Ⅱの内容で指数関数と対数関数まで 数学A：数学Bの内容	文系（数学Ⅱ、数学B）：数学ⅡBの残り と数学Cのベクトル 理系（数学Ⅱ、数学B）：数学ⅡBの残り と数学Ⅲの定積分までと数学Cの内容	数学Ⅲ・数学C：2年次の残り 演習（演習数学1A、演習数学ⅡB、演習数学、演習数学2、演習数学3）： 大学入試に向けて、総合的に演習する。
理 科	目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
	学習内容	4 分野のうち、化学分野と生物分野について学習する。 化学：身のまわりの物質、化学変化と原子・分子 生物：いろいろな生物とその共通点、生物のからだのつくりとはたらき	4 分野のうち、物理分野と地学分野について学習する。 物理：身のまわりの現象、電気の世界、運動とエネルギー、科学技術と人間 地学：大地の変化、天気とその変化、地球と宇宙	化学分野と生物分野の中学 3 年次の内容を高等学校の内容を含めて学習する。 化学：化学と人間生活、物質の構成、物質の変化(物質量と化学反応式、酸と塩基)、化学変化とイオン 生物：生命の連続性、自然の中の生物、生物の多様性と生態系	化学基礎：中和滴定、物質の変化（酸化還元反応）、化学より「物質の状態、化学反応とエネルギー（化学反応と熱・光まで）」 生物基礎：生物の特徴、遺伝子とそのはたらき、ヒトの体の調節、生物より「生態と環境」 物理基礎：物体の運動、エネルギー、波、電気、物理と社会	理系選択者は「化学」のみ、または「化学」1科目及び「生物」または「物理」より1科目を選択し学習する。 化学：化学反応とエネルギー、化学反応の速さと平衡、無機物質、有機化合物 生物：生物の進化、生命現象と物質、遺伝情報の発現と発生 物理：様々な運動、波、電気と磁気	文系選択者は「演習理科」を履修可能。大学入学共通テスト（生物基礎、化学基礎）の対策を行う。 理系選択者は化学・生物・物理の各科目（化学、生物、物理、演習化学、演習生物、演習物理）から、自身の進路に必要な科目を履修し、高校2年次までに未学習の残りの単元の学習と大学入試に必要な問題演習や、実験や観察を行う。
社 会 （ 地 理 歴 史 ・ 公 民 ）	目標	社会科3分野について、基本用語の理解を進める。歴史的分野、地理的分野、公民的分野の関連性をもたせ、総合的な思考力の育成を図る。			社会生活における思考・行動様式の形成過程の社会化に対する積極的な支援を行う。		
	学習内容	地理的分野：読図・地名教育、さらに生活・文化学習を進める。 歴史的分野：人物学習、さらに世界史上の出来事との関連について学ぶ。同時代学習にも配慮する。	地理的分野：中学1年次に引き続き学ぶ。 歴史的分野：中学1年次に引き続き学ぶ。	公民的分野：公民的資質の向上に資するように、自主的な学習を行う。 演習：高等学校の学習内容を意識した日本の近現代史を学ぶ。	歴史総合：近現代の世界、世界のなかの日本の姿を学ぶ。テーマ史学習を積極的に進める。 公共：現代社会のしくみや基本原理、思想等の学習を通し、現代の諸課題を捉え、考察し、判断する「社会的な見方・考え方」を養う。	地理総合：現代世界を地図、自然環境の面から学ぶ。適宜考察を行い、主体的な学習姿勢の涵養を図る。 日本史探究：基本的知識をもとに、日本の歴史を多面的に捉えて総合的に理解する力や、歴史的課題に主体的に取り組む力を養う。 世界史探究：先史時代から現在に至る世界の諸相を学ぶ。	地理探究・日本史探究・世界史探究：2年次の内容の続きを学ぶ。 演習（地理・日本史・世界史・公民）：オリジナル創作問題や入試の良問に数多く触れ、各科目の本質的理解を促す。 倫理：現代思想までを扱う。 政治・経済：基本的知識を確認しながら、時事的な課題にも関心を向けるように促す。

学 年		中学校			高等学校		
		1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年
芸 術	目 標	中学の「音楽」では、発声、合唱、器楽演奏の基礎的な技能を固め、豊かな音楽表現を目指していく。中学の「美術」では、基礎的な技法や観察表現の仕方を学び、技術・感性・知識を高める。			「音楽」「美術」「書道」の中から1科目を選択し、それぞれの科目のそれぞれの作品とじっくり向き合う中で、より豊かでより深い芸術表現を目指していく。		
	学 習 内 容	音楽：基礎発声、聖歌、合唱、器楽アンサンブル、音楽鑑賞 美術：デッサンの基礎、色の構成、彫刻、ビデオ鑑賞			音楽：合唱、ア・カペラ、アンサンブル、イタリア歌曲、日本歌曲、ミュージカル歌唱、初歩的な作曲、合奏等 美術：デッサン、着彩、立体造形、工芸、ビデオ鑑賞、油絵等 書道：書の基本・歴史、古典の鑑賞・臨書、仮名、実用書等を学ぶ。		
保 健 体 育	目 標	体育：運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践できるようにするため、運動・体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付ける。 保健：個人生活における健康・安全に関する理解するとともに、基本的な技能を身に付ける。			体育：運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 保健：個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付ける。		
	学 習 内 容	体育：集団行動、体づくり運動、バスケットボール、水泳、陸上（走り幅跳び、短距離走リレー）、武道（少林寺拳法）、器械体操（マット運動）	体育：集団行動、体づくり運動、バレーボール、水泳、陸上（高跳び）、武道（少林寺拳法）、バドミントン 保健：心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と病気の予防	体育：集団行動、体づくり運動、水泳、陸上（60mハードル）、ダンス、バレーボール	体育：集団行動、体づくり運動、陸上（短距離走）、水泳、硬式テニス、器械体操（平均台、マット）、バスケットボール	体育：集団行動、体づくり運動、陸上（短距離走）、水泳、バレーボール、新体操（ボール、フープ） 保健：安全な社会生活、生涯を通じる健康、生と性に関するテーマで班別課題学習と発表	体育：集団行動、体づくり運動、陸上（短距離走）、水泳、硬式テニス、バドミントン、選択球技 保健：安全な社会生活、現代社会と健康、健康を支える環境づくり

学年		中学校			高等学校		
		1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年
宗教	目標	キリスト教的土壌のない日本におけるミッションスクールへ入学してきた生徒たちに、知識的な面に偏ることなく、肌で触れるキリスト教の側面を大切にする。「キリスト教に親しむ」「聖書に親しむ」という点に主眼を置き、現代社会の一般的価値との違いにも気づかせる。			中学3年間で親しんできたキリスト教を、ある程度、体系的・学問的に学ぶ。またそれに加え、現代社会に起こっているさまざまな問題に目を留め、各自がそれぞれの傾きに照らして何ができるか、どのような役割を担えるかを考え、将来につなげることを活かす。		
	学習内容	宗教Ⅰ：キリスト教について(1) ・明の星の学校生活とキリスト教 ・現代におけるキリスト教 ・人類の文化とキリスト教 聖歌、文学、絵画、ビデオを通してキリスト教に親しむ。	宗教Ⅱ：キリスト教について(2) ・イエス・キリストとはどのような人物であったか。 ・使徒たちが伝えたキリスト教 ・キリスト教の歴史 イエスと使徒たちを中心に、聖書を抜粋して読む。	宗教Ⅲ：聖書について(1) ・聖書とはどんな書物か、について。 ・旧約聖書、新約聖書の概要を学ぶ。 ・人権、平和、日本とキリスト教の歴史的な出会いなどについて学ぶ。	聖書Ⅰ：聖書について(2) ・旧約聖書を主として扱い、創世記、出エジプト記などを中心に、ユダヤ・キリスト教の基本的な知識と、聖書の伝えようとするメッセージや人間観を読み取っていく。 ・新約聖書についても、旧約の伝統とのつながりを意識しながら適宜紹介する。	聖書Ⅱ：キリスト教の人間観(1) ・新約聖書を主に扱い、福音書こみられるイエスの生涯、その思想を学び、そこからイエスが親しく「父」とよぶ神の思いに触れていく。 ・キリスト教の人間観をもって生きた人々について学ぶ。	聖書Ⅲ：キリスト教の人間観(2) ・現代人が直面する諸問題と聖書が伝えるメッセージを重ね合わせながら、人間の生き方、キリスト教の本質についての理解を深めていく。
技術・家庭	目標	家庭の一員としての役割を果たし、自立して生活できるために必要な知識・技術の習得を目指す。			家庭における生活の営みを人の生涯とのかかわりの中でとらえることを目指す。また、各分野の知識・技能を総合的に学習し、家庭生活の課題を主体的に解決するとともに、自立した生活の充実・向上を図る能力が身につくようにする。		
	学習内容	技術：材料、機械、電気、コンピュータについて、基本的な知識・技術を学習する。 家庭：被服について基本的な知識・技術を学習する。	家庭：被服、住居、食物について実習を中心として学習する。	家庭：食物について実習を交えて学習する。		家庭基礎：食生活、衣生活、人の一生とキャリア形成、家族と保育、高齢期の生活、暮らしと消費や金融について学習する。	
情報	目標				情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育てる。		
	学習内容				情報Ⅰ：情報社会と私たち、メディアとデザイン、アルゴリズムとプログラミング	情報Ⅰ：システムとデジタル化、ネットワークとセキュリティ、問題解決とその方法	演習情報（選択授業）：プログラミング等
理数／課題探究	目標				探究的な活動を通して、よりよく課題を発見し解決する力を身につける。		
	学習内容				理数探究基礎：与えられた課題の解決を通して、情報収集・整理分析・まとめ発表の知識・技能を身につける。	課題探究：課題を自ら設定し、その答えを探し出す活動を行う。中間・最終発表を行い、論文としてまとめる。	